"K" LINE
川崎汽船株式会社

2017年度第３四半期
決算説明会資料

2018年1月31日

目次

A 2017年度 第３四半期決算概要

- A-1：第３四半期決算概要
- A-2：通期業績予想
- A-3：セグメント別　通期業績予想
- A-4：通期 業績変動のポイント [前期比較]
- A-5：通期 業績変動のポイント [２Ｑ公表比較]
- A-6：構造改革及び引当金等による収支影響額・コスト削減進捗
- A-7：中期経営計画 進捗状況

B 部門別業績動向

- B-1：不定期専用船事業 – ドライバルク船
- B-2：不定期専用船事業 – LNG船 / 油槽船 / 電力炭船
- B-3：海洋資源開発事業
- B-4：コンテナ船事業
- B-5：不定期専用船事業 – 自動車船

C 定期コンテナ船事業合弁会社 事業開始に向けた進捗状況報告

2017年度第３四半期
決算概要

第３四半期決算概要

連結 第３四半期決算概要

（億円）

	2017年度 上期 実績	2017年度 3Q 実績	2017年度 9ヶ月 累計	前年同期比 9ヶ月 前年累計	前年同期比 今回 増減額
売上高	5,789	3,051	8,841	7,609	1,231
営業損益	62	9	71	▲ 347	418
経常損益	111	▲ 18	94	▲ 369	463
親会社株主に帰属する当期純利益	132	▲ 39	93	▲ 546	639
為替レート(¥/$)	¥111.20	¥112.65	¥111.68	¥106.92	¥4.76
燃料油価格($)	$324	$358	$336	$244	$92

セグメント		2017年度 上期 実績	2017年度 3Q 実績	2017年度 9ヶ月 累計	前年同期比 9ヶ月 前年累計	前年同期比 今回 増減額
コンテナ船	売上高	3,044	1,537	4,581	3,814	767
	経常損益	90	▲ 20	70	▲ 239	310
不定期専用船	売上高	2,509	1,413	3,922	3,385	536
	経常損益	27	27	54	▲ 56	110
海洋資源開発及び重量物船	売上高	62	7	70	149	▲ 80
	経常損益	8	▲ 14	▲ 6	▲ 32	25
その他	売上高	174	95	268	261	8
	経常損益	20	6	25	19	6
調整額	売上高	-	-	-	-	-
	経常損益	▲ 34	▲ 16	▲ 49	▲ 61	12
合計	売上高	5,789	3,051	8,841	7,609	1,231
	経常損益	111	▲ 18	94	▲ 369	463

主な財務指標

（億円）

	2016年度期末	2017年度3Q末	増減額
自己資本	2,195	2,326	132
有利子負債	5,505	5,469	▲ 36
DER	251%	235%	▲16%
NET DER	160%	134%	▲26%
自己資本比率	21%	22%	1%

▶ コンテナ船事業

荷況は堅調に推移するも、需給ギャップの継続、船社間統合に向けた過渡期により運賃市況は上値の重たい状況となり、また燃料油価格上昇なども加わり厳しい収益環境となった

▶ 不定期専用船事業

ドライバルク船市況は、中国向けを中心とした需要に牽引され堅調に推移。一方、油槽船市況は軟調に推移。自動車専用船では、資源国向け荷量は低調継続も、アジア出し北米・欧州向け及び大西洋域内荷量は堅調に推移

▶ 海洋資源開発事業

オフショア支援船市況は低迷。為替評価差損約10億円を計上

通期業績予想

連結　2017年度通期業績予想

（億円）

	2017年度			前期比		２Q公表比	
	上期実績	下期予想	通期予想	通期実績	増減額	公表通期	増減額
売上高	5,789	5,811	11,600	10,302	1,298	11,400	200
営業損益	62	48	110	▲ 460	570	130	▲ 20
経常損益	111	▲ 82	30	▲ 524	554	130	▲ 100
親会社株主に帰属する当期純利益	132	▲ 46	85	▲ 1,395	1,480	85	-
為替レート(¥/$)	¥111.20	¥112	¥111.51	¥108.76	¥2.75	¥110.83	¥0.68
燃料油価格($)	$324	$374	$349	$265	$84	$325	$24

▶ 通期営業損益・経常損益予想を前回2Q公表比、それぞれ▲20億円・▲100億円修正

営業損益と経常損益の差異は、主にコンテナ船統合関連費用の内、当社人員の
ONE社への出向収入を営業費用の戻しとして計上したことによるものです。
当期純利益には、事業ポートフォリオ・資産見直しに伴う特利損も見込み、通期予想は85億円としております。

▶ 変動影響 (第4四半期)

為替レート１円変動 ± 1億円
燃料油価格10ドル変動 ±1億円

配当 (2017年度)

中間配当　－　無配
期末配当予想　－　無配

財務体質の改善を喫緊の課題と捉え、遺憾ながら当期の中間配当は無配、期末配当予想も無配とさせていただきます。

セグメント別　通期業績予想

連結　2017年度通期業績予想

（億円）

セグメント		2017年度 上期実績	2017年度 下期予想	2017年度 通期予想	前期比 通期実績	前期比 増減額	２Q公表比 公表通期	２Q公表比 増減額
コンテナ船	売上高	3,044	2,946	5,990	5,190	800	5,940	50
	経常損益	90	▲ 85	5	▲ 315	320	90	▲ 85
不定期専用船	売上高	2,509	2,662	5,170	4,565	605	5,020	150
	経常損益	27	42	70	▲ 95	165	70	-
海洋資源開発及び重量物船	売上高	62	18	80	194	▲ 114	80	-
	経常損益	8	▲ 19	▲ 11	▲ 51	40	4	▲ 15
その他	売上高	174	186	360	353	7	360	-
	経常損益	20	10	29	25	4	29	-
調整額	売上高	-	-	-	-	-	-	-
	経常損益	▲ 34	▲ 30	▲ 63	▲ 88	25	▲ 63	-
合計	売上高	5,789	5,811	11,600	10,302	1,298	11,400	200
	経常損益	111	▲ 82	30	▲ 524	554	130	▲ 100

▶ コンテナ船事業

通期業績予想は、運賃市況前提及び燃料油価格上昇により下方修正

尚、2017年度ONE社の全体での発生費用見込みは約338百万ドルであり、当社への出向料収入などを含んだコンテナ船統合関連費用全体での当社業績への影響は約▲50億円を見込んでおります。

▶ 不定期専用船事業

前回公表と同様の経常損益+70億円を見込む

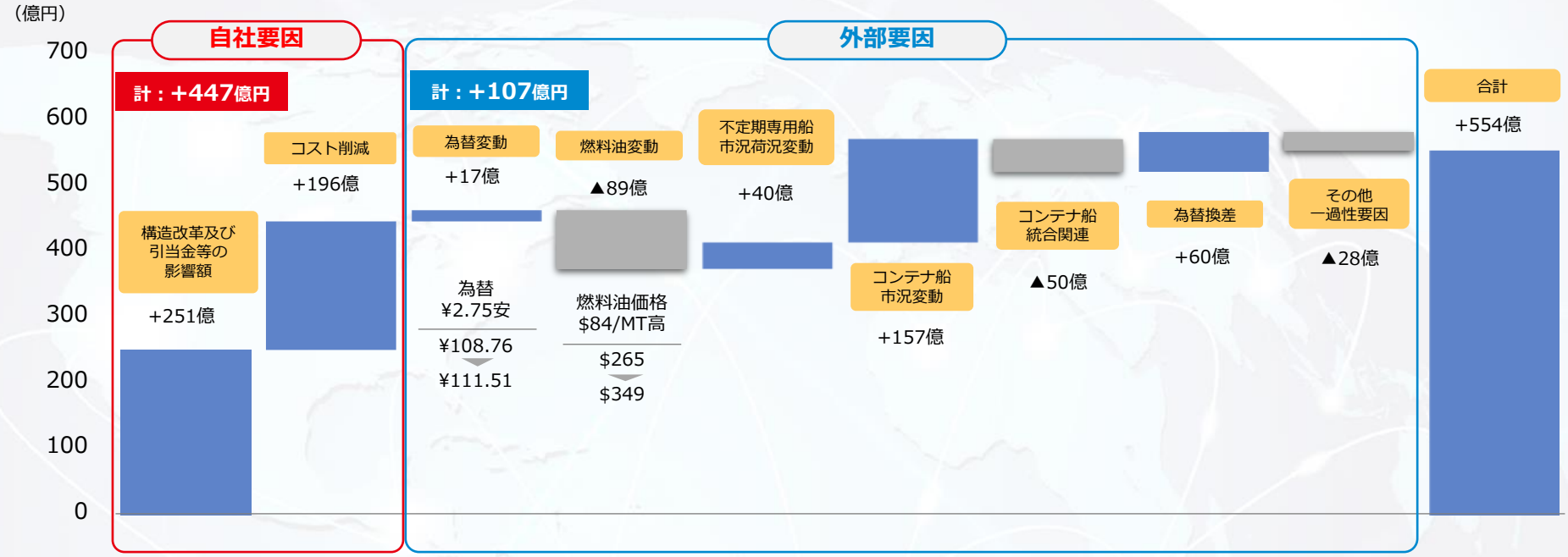
▶ 海洋資源開発事業

オフショア支援船事業における為替評価損及び市況低迷により、▲15億円の修正

通期 業績変動のポイント [前期比較]

前期比 経常損益と損益変動要因

2016年度通期実績 ▲524億 ⇒ 2017年度通期 最新予想 +30億 (+554億)



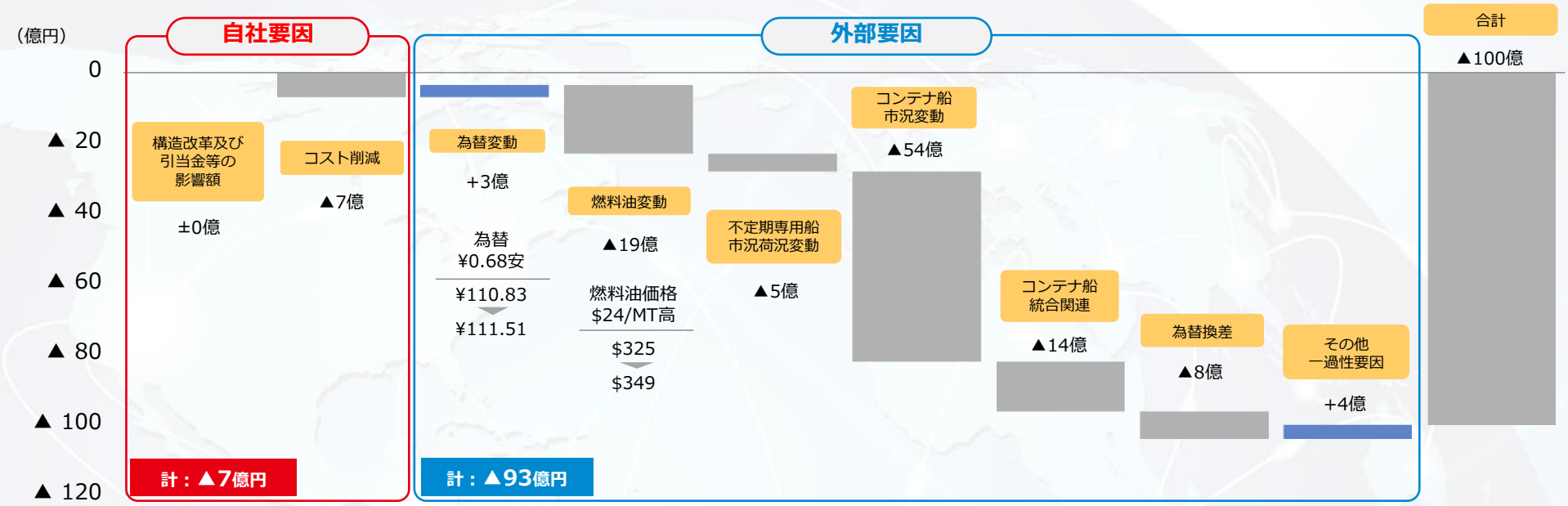
市況前提比較

		2016年度 上期実績	2016年度 下期実績	2016年度 通期実績	2017年度 上期実績	2017年度 下期予想	2017年度 通期予想	通期差異 前年比
コンテナ船	北米往航運賃指数	72	78	75	76	73	75	-
	欧州往航運賃指数	43	50	47	55	51	53	6
ドライバルク	CAPE	$7,400	$11,500	$9,450	$13,400	$19,700	$16,550	+$7,100
	PANAMAX	$5,350	$8,450	$6,900	$9,600	$11,500	$10,550	+$3,650
	HANDYMAX	$6,450	$8,250	$7,350	$8,950	$9,800	$9,350	+$2,000
	SMALL HANDY	$5,300	$6,800	$6,050	$7,350	$8,900	$8,150	+$2,100
油槽船	VLCC(中東-日本)	$29,000	$38,000	$33,500	$15,400	$15,200	$15,300	▲$18,200
	AFRAMAX (南方/日本)	$14,300	$14,250	$14,300	$9,300	$6,750	$8,000	▲$6,300
	クリーン船11万トン(中東/日本)	$14,450	$10,250	$12,400	$10,450	$10,200	$10,300	▲$2,100

通期 業績変動のポイント［２Ｑ公表比較］

2Q公表比 経常損益と損益変動要因

2017年度通期 2Q公表 +130億 ⇒ 2017年度通期 最新予想 +30億(▲100億)



市況前提比較

		2Q公表			2017年度			通期差異
		上期実績	下期予想	通期予想	上期実績	下期予想	通期予想	
コンテナ船	北米往航運賃指数	76	77	76	76	73	75	▲ 1
	欧州往航運賃指数	55	55	55	55	51	53	▲ 2
ドライバルク	CAPE	$13,400	$16,000	$14,700	$13,400	$19,700	$16,550	+$1,850
	PANAMAX	$9,600	$12,000	$10,800	$9,600	$11,500	$10,550	▲$250
	HANDYMAX	$8,950	$10,000	$9,500	$8,950	$9,800	$9,350	▲$150
	SMALL HANDY	$7,350	$7,750	$7,550	$7,350	$8,900	$8,150	+$600
油槽船	VLCC(中東-日本)	$15,400	$21,000	$18,200	$15,400	$15,200	$15,300	▲$2,900
	AFRAMAX (南方/日本)	$9,300	$10,000	$9,650	$9,300	$6,750	$8,000	▲$1,650
	クリーン船11万トン(中東/日本)	$10,450	$12,000	$11,200	$10,450	$10,200	$10,300	▲$900

構造改革及び引当金等による収支影響額・コスト削減進捗

2015･16年度に行った構造改革及び引当金等による2017年度収支影響額

（億円）

	期首前提	通期見込	期首前提比
不定期専用船事業	118	119	+1
コンテナ船事業	203	202	▲1
海洋資源開発及び重量物船	22	23	+1
合計	**343**	**344**	**+1**

コスト削減実績（対期首目標比）

（億円）

		期首目標	上期実績	下期見込			通期見込	期首目標比	達成率
				3Q実績	4Q見込				
コンテナ船	航路合理化	145	80	28	36	63	143	▲2	99%
	運航経費削減								
	コスト削減								
	収益改善								
不定期専用船・その他		47	26	13	14	26	53	+6	112%
合計		**192**	**106**	**40**	**49**	**90**	**196**	**+4**	**102%**

中期経営計画 進捗状況

事業ポートフォリオ戦略転換

前回以降の取組みを黒字表記

- 重量物船事業売却を実施(2017年7月)
- ガーナ沖 油ガス田FPSO事業参画基本合意(2017年7月)
- マレーシア･テナガ社発電用石炭COAなど安定収益基盤拡充に取り組む
- コンテナ船事業統合の完遂に向けて取り組み中
- 豪州イクシスプロジェクト向けLNG船2隻：4Qに竣工予定
- チリ 完成車物流サービス開始 (2017年8月サービス開始)
- フィリピン 完成車物流サービス開始 (2017年11月サービス開始)

経営管理高度化と機能別戦略強化

- 経営管理高度化

  事業リスクリターン管理を運用開始(事業評価･投資評価)

- CRM(カスタマー･リレーションシップ･マネジメント)強化

  国内外グループを含め、顧客基盤強化へ取組み中

- 技術革新･ビジネスモデル変革

  ✓ 最適運航支援システム「K-IMS」搭載決定(2017年9月)
  ✓ 日本初のLNG燃料フェリー就航へ共同検討(2017年9月)
  ✓ 国内における船舶向けLNG燃料供給事業の検討開始(2018年1月)

ESGの取組み

- 次世代環境フラッグシップ – シップ･オブ･ザ･イヤー2016受賞

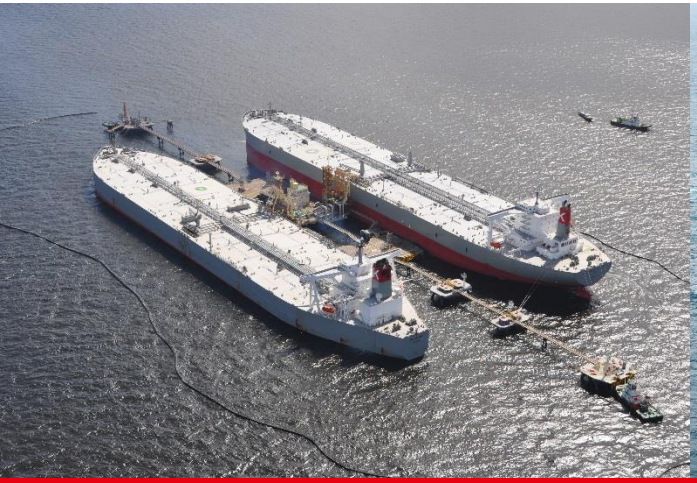
  当社7,500台積自動車専用船 ”DRIVE GREEN HIGHWAY”が
  日本船舶海洋工学会主催の題記賞を受賞

- SRI投資関連 構成銘柄選定

  「FTSE4Good Global Index」 構成銘柄選定(15年連続)
  「MSCI 日本株女性活躍指数」 構成銘柄選定
  「ETHIBEL EXCELLENCE 投資ユニバース」 組入れ企業継続選定
  「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」構成銘柄選定
  (7年連続)

- CDP「気候変動 Aリスト」に選定 (2017年10月、2年連続)

部門別業績動向



B-1 部門別業績動向
不定期専用船事業 -ドライバルク船

2017年度 3Q累計実績

- 中国向けを中心とした輸送需要の拡大を背景に上昇基調を維持し、足元のドライバルク市況は2014年初以来の水準まで回復
  - 大型船
    中国で環境対策が強化される中、高品位の輸入鉄鉱石への需要が広がったことで、勢いのある上昇傾向が継続
  - 中小型船
    中国における冬場の石炭需要の高まりや旺盛な穀物需要、堅調なマイナーバルク（石油コークスやボーキサイトなどの鉱物資源、鋼材、肥料等）の荷動きに下支えされ緩やかな上昇を維持

2017年度 4Q以降

- 強みを活かした中長期契約の拡充と運航効率の向上に引き続き取り組み、市況変動の影響を受けにくい収益構造を強化する

バルク市況	2016年度					2017年度				
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期予想
CAPE	$6,700	$8,000	$12,000	$11,000	$9,450	$12,200	$14,600	$23,350	$16,000	$16,550
PANAMAX	$4,900	$5,800	$8,700	$8,200	$6,900	$9,000	$10,200	$12,000	$11,000	$10,550
HANDYMAX	$5,800	$7,000	$8,400	$8,100	$7,350	$8,700	$9,200	$10,700	$8,850	$9,350
SMALL HANDY	$4,800	$5,800	$7,000	$6,600	$6,050	$7,300	$7,400	$9,350	$8,500	$8,150

B-2 部門別業績動向
不定期専用船事業 – LNG船/油槽船/電力炭船

2017年度 3Q累計実績

- **LNG船**
  - 安定収益事業として中長期契約を基盤とした順調な稼動
  - 液化ガス新事業室を新設し、液化ガス関連新規事業への取組みを強化
- **油槽船**
  - 船腹供給増を背景に需給ギャップが悪化し、市況は低調に推移
  - 当社VLCC及びLPG船隊は、中長期契約を基盤とした順調な稼動を継続
- **電力炭船**
  - 中長期契約を基盤とし安定的な収益を確保
  - 配船・運航効率改善の追求と、エクスポージャー縮小を実施

2017年度 4Q以降

- **LNG船**
  - 液化ガス新事業をグループ体制に拡大、需要創出型のLNG／LPG新事業開拓を更に推進
  - 中長期契約獲得による安定収益の積上げに取り組む
  - トレード変化による中期契約需要には事業リスク管理を考慮した対応
- **油槽船**
  - 既存船代替・新規契約獲得による中長期契約拡充
  - 市況影響型事業の縮減
- **電力炭船**
  - 中長期契約を基盤とし安定的な収益を確保
  - 配船・運航効率改善の追求と、エクスポージャー縮小を実施

油槽船市況（WS）	2016年度					2017年度				
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期予想
VLCC	60	37	70	69	59	57	45	62	50	54
（中東/日本）	$42,000	$16,000	$48,000	$28,000	$33,500	$19,800	$11,000	$20,350	$10,000	$15,300
AFRAMAX	101	75	97	115	97	99	93	110	100	101
（南方/日本）	$18,600	$10,000	$15,000	$13,500	$14,300	$10,200	$8,350	$7,500	$6,000	$8,000
クリーン11万トン	88	91	75	107	90	92	112	117	105	107
（中東/日本）	$14,400	$14,500	$9,500	$11,000	$12,350	$8,700	$12,200	$11,350	$9,000	$10,300

B-3 部門別業績動向
海洋資源開発事業

2017年度 3Q累計実績

- オフショア支援船
  - 海洋資源開発停滞により市況は低迷
- ドリルシップ
  - 船腹順調稼働により安定収益を確保
- FPSO
  - ガーナ向けFPSOの保有・傭船事業への参画に関わる契約を締結
    (15年間の傭船契約による安定収益事業拡充・次代の中核事業育成を図る)

2017年度 4Q以降

- オフショア支援船
  - 収益安定化に向けた事業構造改革・コスト削減・為替対策を進める
- ドリルシップ
  - 高稼働率運航による安定収益型事業として定着
- FPSO
  - ガーナ向けFPSOの諸契約手続き進展中

B-4 部門別業績動向
コンテナ船事業

2017年度 3Q累計実績

- 北米航路を始め市況は低迷、利益は縮小するも累計では黒字を維持
- 積高は前年同期比で増加
- 期首に設定した航路合理化、コスト削減は粛々と実行、見込み通りの成果

2017年度 4Q

- 運賃市況は歴史的低レベルからの改善は見られるものの、需給バランスは未だ不安定
- 最適配船による運航コストの削減、システム活用による往復航バランスの改善、および収益性の高い特殊貨物を推進
- THE Allianceによる顧客ニーズに応える、より強力なネットワーク提供
- 邦船３社によるコンテナ船事業統合会社の立ち上げを万全の体制で推進

		2016年度					2017年度				
		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期予想
売上高（億円）		1,222	1,247	1,345	1,376	5,190	1,472	1,573	1,537	1,409	5,990
経常損益（億円）		▲ 123	▲ 87	▲ 29	▲ 76	▲ 315	61	29	▲ 20	▲ 65	5
運賃推移	北米往航	73	71	76	81	75	76	75	73	74	75
08年1Q＝100	欧州往航	40	47	47	54	47	54	56	50	52	53
積高（万TEU）	北米往航	23.3	26.6	26.4	23.5	99.7	25.6	26.8	24.8	23.4	100.6
	欧州往航	10.0	10.4	10.6	10.9	41.8	11.5	12.2	11.7	11.5	46.9
スペース（万TEU）	北米往航	26.5	27.7	27.0	25.8	107.0	27.9	28.8	28.0	27.1	111.7
	欧州往航	11.4	11.7	11.6	11.3	46.0	12.3	13.2	12.9	12.5	50.8
消席率（%）	北米往航	88%	96%	97%	91%	93%	92%	93%	89%	86%	90%
	欧州往航	88%	89%	91%	96%	91%	94%	92%	91%	92%	92%

B-5 部門別業績動向
不定期専用船事業 – 自動車船

2017年度 3Q累計実績

- 輸送台数：2,679千台（前年同期比約15%増）
- 完成車海上輸送需要：

  アジア出し資源国向け荷量は低調に推移。欧州出し北米向けや欧州域内の貨物積取りは好調を維持。

2017年度 4Q以降

- 極東アジア出し欧州・北米向け貨物や大西洋域の荷動きは堅調に推移、資源国向けの荷動きは回復にしばらく時間を要する見込み
- HIGH&HEAVY貨物(背高･重量貨物)増量の取組みの継続と収益拡大
- 7,500台超自動車船15隻をはじめとする次世代大型船効果による競争力向上
- 荷動きの増減に即して短期傭船にて船腹調整を実施
- トレード構造の変化や複雑化に対応すべく、航路ネットワークの改編並びに船隊整備を進め、事業基盤を強化

輸送台数（千台）	2016年度					2017年度				
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期予想
往航	265	261	296	250	1,071	264	250	288	260	1,062
復航	47	50	48	36	181	48	46	54	52	199
三国間	289	283	312	286	1,171	362	324	384	303	1,372
欧州域内	170	154	155	203	682	213	225	223	243	903
合計	771	748	811	776	3,106	887	844	948	858	3,536
船隊規模（隻数）	100	97	95	94	94	94	94	91		

OCEAN NETWORK EXPRESS

定期コンテナ船事業合弁会社事業開始に向けた進捗状況報告

2018年1月31日

C-1 統合作業の進捗状況（1/3）

- 全体の進捗状況：当初の想定から変更無し
- **本年２月1日より、順次ブッキングの受付開始**

新デザインコンテナ　準備開始　17年11月

シンガポール本社Marina One 新事務所　1月19日グランドオープン

2016/10/31	2017/5/31	2017/7/7	2017/7/10	2017/10	2018/2	2018/4/1
定期コンテナ船事業統合を発表	新会社の商標および拠点を発表	新会社設立を発表	新会社社長およびロゴを発表	営業活動開始	システム稼働およびBooking開始	新会社サービス開始

Copyright © 2018 Ocean Network Express Pte. Ltd. All Rights Reserved

Ocean Network Express

統合作業の進捗状況（2/3）

地域統括拠点/現地法人設立状況	- 全ての地域統括拠点（シンガポール、香港、 英国、アメリカ、ブラジル）および日本総代理店ONE JAPANで業務開始(17年10月) - シンガポール本社 Marina One を１月１９日から正式開業。 - その他各国現地法人も、計４９カ国で設立完了し、営業開始。
独禁法認可	- 南アフリカ共和国認可取得（2018年1月18日）を以て、統合事業に必要な手続きは、全て完了。
顧客との輸送契約（入札）	- 2018年4月以降発効の年間契約について順次応札中。 - 2018年サービススケジュールの発表（1月26日）
ベンダー契約	- 2018年4月以降発効のベンダー契約に就いて交渉中。

Copyright © 2018 Ocean Network Express Pte. Ltd. All Rights Reserved

Ocean Network Express

C-3 統合作業の進捗状況（3/3）

ITインフラ	- ブッキング受付に合わせ、基幹システムの稼働開始（18年2月） - E-commerce ：顧客利便性を追求した多機能ホームページを開設（18年2月）
カスタマーサービス	- ONEとしてのサービス開始船を公表。邦船3社からのサービス切り替えに伴う顧客向け案内も発信 - ONE新ブランドウェブサイトを開設 - カスタマーニュースレターを定期配信 - ONEサービスマップの公開 (THE Allianceサービス)
新造コンテナ発注	- ４月のサービス開始に向け、新造コンテナを発注（10,000 x 40’ハイキューブコンテナ）

2018年4月サービス開始に向け、最終準備を進めて行きます

Copyright © 2018 Ocean Network Express Pte. Ltd. All Rights Reserved

Value for our Next Century